

委託事業実施内容報告書
令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人 可児市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域多文化共生人材育成事業
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	可児市在住外国人は、8,089人(7.9%)で、県内シェアは、第2位と高い。可児市を始め、可児市多文化共生センターフレビア(当協会が運営を担っている)では、外国人スタッフ常駐、通訳や翻訳の対応ができたり、派遣された工場では、日本語を使わなくても仕事ができる。また、ブラジルやフィリピン、ベトナムのコミュニティが独立して成り立っており、外国人にとって、生活の中で日本語の必要性はあるものの、必死になって、日本語を覚えなければならないという感じは見受けられなかった。 おそらく、地域住民も外国人の存在は認識しているが、それ以上のことは求めてはいないが、外国人コミュニティと地域住民のつながりを希薄に感じているようだった。日本語教室に、地域住民が関わることによって、もっと外国人への関心を高める必要があった。 また、従来より、恒常的にほぼ毎週、日本語教室を実施しているが、開催場所には、外国人が多く在住している地域(今渡・土田地区)から会場まで、徒歩は難しく、車または、電車で移動しなければならないため、今後より多くの外国人に日本語学習機会を提供するには、今後、今渡・土田地区の教室開講が必要だと考えた。 ※可児市多文化共生センターフレビア＝下恵土地区 8.6% 今渡・土田地区 42.7%
事業の目的	在住外国人が地域社会の一員として、安心安全な生活ができるような支援を構築する。 そのために、一人でも多くの地域住民が日本語教室に関われるように日本語支援者養成講座を実施し、従来の日本語教室の支援者を増やし、今渡・土田地区の新設に向けた準備も整備する。従来から取り組んでいるポートフォリオを活性化するために、活動分野ごとに評価方法を知り、その評価によりどんな効果が得られるのかを考え、見直しや改善につなげる。
本事業の対象とする空白地域の状況(空白地域を含む場合のみ記入)	
事業内容の概要	<日本語教育の実施> 土曜日(夜19:00～20:30)、日曜日(昼13:30～15:30)に実施、オンラインや対面授業を、感染拡大状況、施設利用条件等の状況に応じて実施した。生活場面に密着した(買い物、防災、など)テーマを中心に、会話・対話活動を行った。土曜日は、さらに漢字クラスを取り入れた。 <日本語教育を行う人材の養成・研修の実施> 養成講座:可児市在住の外国人が多く住む地域(今渡・土田地区)での日本語教室新設に向け、また、従来の日本語教室の支援者を増やすために、支援者養成講座を実施した。 研修:日本語教室で学習者は、ポートフォリオに取り組んでいたが、学習者の自律的かつ継続的な学習につながるような、取り組みとして見直さなければならなかった。そのために、評価とは何か、評価の種類や評価が生み出す効果について、あらゆる分野から学び、自分たちの取り組みを振り返った。 <教材作成> 学習者が自律的かつ継続的な学習につながる教材は何か。学習者にヒアリングしながら、取組2の研修での学びと合わせて、コーディネーター(作成者)と支援者とで話し合い、作成した。
事業の実施期間	令和 2年 5月～令和 3年 3月 (11 か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	米勢 治子	東海日本語ネットワーク 副代表
2	小島 祥美	東京外国語大学 准教授
3	松井 かおり	朝日大学 准教授
4	春成 浩治	岐阜県国際交流センター 局長補佐
5	加藤 エジソン	可児市役所 人づくり課 主査
6	山田 久子	多文化演劇ユニットMICHl 代表
7	各務 眞弓	可児市国際交流協会 事務局長
8	近藤 利恵	可児市国際交流協会 事務局次長
9	菰田 さよ	可児市国際交流協会 日本語講師



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年9月8日(火) 13:30～16:00	2.5時間	可児市多文化共生 センターフレビア	米勢治子, 小島祥美, 春成浩治, 加藤エジソン 山田久子, 各務眞弓 近藤利恵, 菰田さよ	1. メンバーの自己紹介 2. 今年度の取組内容について 各取組実施内容、方向性の確認や 各取組についてアドバイスをいただいた
2	令和3年2月22日 (月) 10:00～12:30	2.5時間	可児市多文化共生 センターフレビア	米勢治子, 小島祥美, 春成浩治, 松井かおり 山田久子, 各務眞弓 近藤利恵, 菰田さよ	1. 今年度実施した取組について 各取組の成果と課題 2. 来年度の取組内容について

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	地域住民と関わりがもてる日本語教室を目指して、多文化演劇ユニットMICHİ、地区センター、自治連合会、可児市役所環境課など、地域で活動している方々と幅広く連携を図り、本事業の取組内容についてや、外国人との関わり方について知ってもらい、一緒に考えてもらう機会となった。
------	---

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	中核メンバー2名は、運営委員会の委員であり、可児市国際交流協会の職員であることと、当協会には、地域日本語教育アドバイザーも在籍しているため、常に相談や確認ができる環境にあった。 業務全体の助言をアドバイザーからもらい、中核コーディネーターや指導者が具体的に業務遂行した。
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:日本語教室】										
取組の目標		学習者が日本語教室での活動を通して、 ・教室で学習した日本語が、学習者の日々の生活に生きること ・学習者が日本語をツールとして、安心・安全に暮らすことができること ・教室と地域のつながりが増える、広がること また、そのための地域づくりに教室として、貢献すること								
内 容		生活場面に密着した(買い物、防災、病院など)テーマを中心とした、会話・対話活動を行った。 土曜日は、漢字クラスも取り入れた。 防災など専門的な分野に関しては、地域の人や市役所職員に講師になっていただき、 地域の人と関わりをもって実施できたとともに、相互に交流を図ることができた。 ■土曜日日本語教室 (19:00～20:30 1.5h) ※感染予防対策による施設の利用制限により、時間短縮も有 ①日常生活に必要な日本語を学ぶ、会話・対話中心のクラス ②文字(漢字)クラス ■日曜日日本語教室 (13:30～15:30 2h) ①日常生活に必要な日本語を学ぶ、会話・対話中心のクラス								
実施期間	令和 2年 7月 11日～令和 3年 1月 30日				授業時間・コマ数		【土曜日:会話】1回 1.5時間 × 13回 = 19.5時間 1回 1時間 × 4回 = 4時間 【土曜日:漢字】1回 1.5時間 × 12回 = 18時間 1回 1時間 × 1回 = 1時間 【日曜日】 1回 2時間 × 9回 = 18時間 【総時間 60.5時間】			
対象者	日本語を学習したい人				参加者		総数 100人 (受講者 82人, 指導者・支援者等 18人)			
カリキュラム案活用	【生活上の行為の事例】と「日本語能力評価」: CanDoリストの項目に参考にした 「教材例集」: 会話活動のテーマに参考にした									
使用した教材・リソース	-									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)【会話】	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2	0	19	3	2	0	1	0	34	1
	アメリカ(1人)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人) 【漢字】	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1	0	6	0	0	0	1	0	8	1
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人) 【日曜日】	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2	0	11	4	0	1	3	0	9	1
日本語教育の実施内容【土曜日日本語教室(会話)】										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和2年7月11日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	9	会話・対話	家族		各務 清香 山田久子	菰田 さよ	
2	令和2年7月18日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	12	会話・対話	私の国		各務 清香 馬淵 愛 内田 貴子	菰田 さよ	
3	令和2年8月8日(土) 19:00～20:00	1	Zoom	4	会話・対話	買い物		菰田 さよ 馬淵 愛	-	
4	令和2年8月15日(土) 19:00～20:00	1	Zoom	3	会話・対話	旅行		各務 清香 馬淵 愛	菰田 さよ	
5	令和2年8月29日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	2	会話・対話	地図作り(アート展)		馬淵 愛	菰田 さよ	
6	令和2年9月19日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	8	会話・対話	病気になったら…		各務 清香	-	

7	令和2年9月26日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	4	会話・対話	買い物	各務 清香 馬淵 愛	菰田 さよ
8	令和2年10月3日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	9	会話・対話	一日の過ごし方	内田 貴子 菰田 さよ	-
9	令和2年10月10日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	6	会話・対話	食事について	馬淵 愛 菰田 さよ	-
10	令和2年10月17日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	7	会話・対話	ファッション	各務 清香 内田 貴子	菰田 さよ
11	令和2年11月7日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	7	会話・対話	私の特技	馬淵 愛 内田 貴子	菰田 さよ
12	令和2年11月14日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	9	会話・対話	私の仕事	内田 貴子 遠藤 佳代	-
13	令和2年11月28日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	6	会話・対話	映画/ドラマ/Youtube	各務 清香 馬淵 愛	菰田 さよ
14	令和2年12月5日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	13	会話・対話	ごみを減らそう	〔講師〕 井藤 聡子	内田 貴子・菰田 さよ
15	令和2年12月19日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	8	会話・対話	座談会	菰田 さよ	馬淵 愛・内田 貴子 遠藤 佳代・山田 久子 田牧 恵子
16	令和3年1月16日(土) 19:00～20:00	1	Zoom	3	会話・対話	私の宝物	各務 清香 馬淵 愛 内田 貴子	-
17	令和3年1月30日(土) 19:00～20:00	1	可児市多文化共生センター フレビア(Zoom)	9	会話・対話	防災ワークショップ	伊藤 三枝子	菰田 さよ・山田 久子 各務 清香・内田 貴子 遠藤 佳代・田牧 恵子
日本語教育の実施内容【土曜日日本語教室(漢字)】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年7月11日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	5	漢字	風水害・土砂災害について	徳竹 礼圭	-
2	令和2年7月18日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	5	漢字	流行の感染症に備える	大野 伸次	-
3	令和2年8月29日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	2	漢字	チラシを読む(食中毒の予防)	徳竹 礼圭	-
4	令和2年9月19日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	5	漢字	漢字の成り立ち①	大野 伸次	-
5	令和2年9月26日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	3	漢字	漢字の成り立ち②	大野 伸次	-
6	令和2年10月3日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	6	漢字	家族	大野 伸次	-
7	令和2年10月10日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	7	漢字	お金に関する漢字	大野 伸次	-
8	令和2年10月17日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	7	漢字	日本の祝日・暦について	遠藤 佳代	-
9	令和2年11月7日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	7	漢字	生活費 / 節約する	遠藤 佳代	-
10	令和2年11月14日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	5	漢字	新聞を読む(新型コロナウイルス)	徳竹 礼圭	-
11	令和2年11月28日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	6	漢字	病院・保険	遠藤 佳代	-
12	令和2年12月5日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレビア	2	漢字	ごみの出し方	遠藤 佳代	-
13	令和3年1月16日(土) 19:00～20:00	1	可児市多文化共生センター フレビア	4	漢字	自己紹介	田牧 恵子	菰田 さよ
日本語教育の実施内容【日曜日日本語教室】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年9月20日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	8	会話・対話	手紙を書く	菰田 さよ	石川 英明・神谷 明子 古沢 光子・遠藤 佳代 岸野 一樹・伊藤 章子

2	令和2年9月27日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	16	会話・対話	防災まちあるき	〔講師〕 山田久子 〔指導者〕 菰田さよ	古沢 光子・遠藤 佳代・中島 薫 住吉 エリオ・伊藤 章子
3	令和2年10月4日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	7	会話・対話	まちがい探し	菰田 さよ	石川 英明・神谷 明子 遠藤 佳代・伊藤 章子
4	令和2年10月18日(日) 13:30～15:30	2	可児市子育て健康プラザマーノ	8	会話・対話	天気	菰田 さよ	石川 英明・神谷 明子 古沢 光子・遠藤 佳代
5	令和2年11月1日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	2	会話・対話	道案内	菰田 さよ	石川 英明・神谷 明子 遠藤 佳代
6	令和2年11月8日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	7	会話・対話	道案内	菰田 さよ	石川 英明・古沢 光子 遠藤 佳代
7	令和2年11月29日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	3	会話・対話	オノマトペ	菰田 さよ	石川 英明・遠藤 佳代
8	令和2年12月6日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	5	会話・対話	今年のNEWS	菰田 さよ	遠藤 佳代・岸野 一樹 伊藤 章子・山田 久子
9	令和2年12月20日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	5	会話・対話	スーパーに買い物に行こう	菰田 さよ	石川 英明・神谷 明子 遠藤 佳代・岸野 一樹

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例① ●土曜日会話

【第5回 令和2年8月29日(土)】
「アート展」に出展する作品づくりを行った。世界地図を分割し、マスキングテープを使って、地図を表現しながら、国の名前や線の表現の仕方、行きたい国・行ったことのある国を話しながら制作した。教室の後半では、出来上がった地図を見ながら、学習者が地図上のどこから日本に来て、どこに行きたいかを発表しあった。
完成した作品は、フレビア内で開催されたアート展にて、一般の人が「出身国」「行きたい国」を地図上にピンと糸を使って表現する作品として、展示された。



○取組事例② ●土曜日漢字

【第1回 令和2年7月11日(土)】
7月は、九州や岐阜でも豪雨による被害やそのニュースが多く取り上げられていたこともあり、このテーマにまつわる漢字を学習した。日本では梅雨・台風など水害に見舞われる時期があることも併せて学習した。
教室内では、一般的に使用されている、防災のチラシから今回学習する漢字をピックアップした。



○取組事例③ ●日曜日

【第9回 令和2年12月20日(日)】
日本に住んでいて、母国に持って帰りたい・オススメしたいものについて話した。
フレビアの近くにスーパーができたため、後半は実際に店へ行き、店内で学習者自身がオススメしたい食べ物または飲み物を探すとともに、普段目にしているもどんなものか分からなかったもの、日本人の視点からのオススメのものを会話しながら店内を回った。
教室に戻ってからは、オススメする理由を発表し、教室内で購入した者を交換した。



(2) 目標の達成状況・成果

今年度の日本語教室はコロナ禍での実施で、運営方法においては感染予防対策や、人数制限をしたりなど、検討・調整することが多かったが、感染状況に合わせて対面やオンラインに切り替えながら実施し続けることができた。また日本語教室支援者も、コロナに関係なく参加していただくことができた。しかし、外部の講師を依頼・連携を取ろうとしたときに会場や人数等制限され、来年度への見送りとなり実施できないこともあったが、きっかけづくりにつながった。コロナ禍となり、人との関わりを最小限にし、日本語学習の優先順位も低いと思われ、学習者数も安定しなかったが、それでも人との関わりや日本語学習を続け、この時期をチャンスと捉える前向きな学習者が多く参加し、支援者たちが寄り添うことができた。今年度できたつながりや、参加した学習者が次年度つながりをつくれるよう、教室として働きかけていきたい。

(3) 今後の改善点について

【土曜日(会話)】
教室の雰囲気は、指導者の素質や指導内容だけではなく、机の配置や座り方、支援者と学習者の距離も、教室の雰囲気づくりに関係していると思う。しかし、私たちが目標としている教室に対して、その雰囲気がまだ近づけていないように感じている。
昨年度からその課題は残っており、今年度、少しの改善は見られたが、指導方法や内容展開などは、まだ検討が必要なのところもある。各々が培ってきた指導方法を、地域の日本語教室や学習者のニーズに合わせられるように、学び合うことが必要である。今まで指導法をお互いに見たり、他の日本語教室(日曜日含む)の様子を知る機会がなかったため、教室の指導者間での交流や、他団体の教室支援者との交流・見学の機会を設けていけたらと考えている。

【土曜日(漢字)】
漢字クラスに参加する学習者は継続する人が多く、フレビアで実施している教室の中でレベルが高いほうに位置付けられているが、クラス自体の目標設定がなく、せっかく継続して来ている学習者に対してもったいないように感じた。
教室の指導者も毎回1人ずつであり、指導者同士が話し合う時間があまり確保できていないため、教室について検討する時間を設ける必要がある。そして、学習者が日本語教室や教室外で活躍できる機会もつくっていききたい。

【日曜日】

コロナウイルスにより、例えば教室内でのロールプレイや、地域の人を巻き込んだ教室など、実施が難しくなってしまったことを学習者や支援者と相談しながら、徐々に取り戻せるようにしていきたい。

また、教室に来られなくなってしまった学習者や地域との繋がりをなくしつつある学習者に対して、教室や地域との関わりを持ち続けられるような方法を模索するとともに、支援者が学習者ひとりひとりの目標を把握し、その達成に向けて寄り添うことができるよう、今回作成した教材や研修会で学んだ手法、ポートフォリオの取組を活用しながら、実施していきたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：地域日本語支援者養成講座】

取組の目標	多様化している日本語教育人材に求められる資質・能力を養成し、日本語教室に関わる人材不足の解消につなげる。 土田・今渡地区開講に向けた人材を集める。									
内 容	① 地域日本語教室とは ～この地域について～ ② 岐阜県の日本語教育体制 ③ 日本語支援者に求められるもの ④ フレビアの日本語教室について・在住外国人と交流 ～地域に長く住んでいる外国人と意見交換をして、お互いのことを知ろう～ ⑤ フレビア土曜日日本語教室：見学及び学習者・支援者との交流 ⑥ フレビア日曜日日本語教室：見学及び学習者・支援者との交流 ⑦ 実習のための準備 ⑧ 今渡地区センターでの実習 ⑨ 養成講座と実習の振り返り									
実施期間	令和 2年 8月 2日～令和 2年 11月 8日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 9回 = 18時間			
対象者	日本語教室に関わろうとしている方及び関わっている方、学校関係者				参加者		総数 50人 （受講者 35人、指導者・支援者等 15人）			
カリキュラム案活用	「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」を参考に支援者と日本語教育プログラムの点検・改善を行った。									
使用した教材・リソース	—									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1		1							33

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年8月2日(日) 14:00～16:00	2	可児市多文化共生センター フレビア (Zoom)	24	地域日本語教室とは～この地域について～	・可児市の在住外国人の背景 ・可児市/フレビア/可児市国際交流協会の取組 ・講座受講者に期待すること	各務 真弓	菰田 さよ
2	令和2年8月16日(日) 10:00～12:00	2	可児市多文化共生センター フレビア (Zoom)	25	岐阜県の日本語教育体制について	・岐阜県日本語教育の総合的な体制づくりについて ・今後予定している取組等	横山 博信	菰田 さよ 戸塚 真希
3	令和2年8月30日(日) 13:00～15:00	2	可児市多文化共生センター フレビア (Zoom)	27	日本語支援者に求められるもの	・地域日本語教室の在り方 ・日本語ボランティアの役割 ・コミュニケーション・対話・協働とは	米勢 治子	菰田 さよ 佐久川 カロリーネ
4	令和2年9月13日(日) 14:00～16:00	2	今渡地区センター 2Fホール (Zoom)	13	フレビアの日本語教室について 在住外国人と交流 ～地域に長く住んでいる外国人と意見交換をして、お互いのことを知ろう～	・フレビアの日本語教室について ・サポーターの関わり方、やりがい ・在住外国人と交流、意見交換	菰田 さよ カミリング マルジ 馬木 照子 Jagulino Jerome Yamaguti Mattos Geam Hiro James Michael Vinluan	石川 英明・神谷 明子 古沢 光子・遠藤 佳代 山田 久子・各務 清香
5	令和2年9月20日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	15	日本語教室体験・交流 (日曜日の教室)	・日本語教室の体験 ・支援者と質疑応答、意見交換	菰田 さよ	-
6	令和2年9月26日(土) 18:45～20:45	2	可児市多文化共生センター フレビア	16	日本語教室体験・交流 (土曜日の教室)	・日本語教室の体験 ・支援者と質疑応答、意見交換	菰田 さよ	-
7	令和2年10月11日(日) 10:00～12:30	2	今渡地区センター 視聴覚室	11	実習に向けて準備しよう	・第8回に向けて(グループワーク) ・テーマ決め、役割分担	菰田 さよ	-
8	令和2年10月25日(日) 13:00～15:00	2	今渡地区センター 視聴覚室	12	実践活動	・テーマを「買い物」とし、折込チラシ等を参考にスーパー内で見かける表示や、レジでのやりとりなど、交流型の会話教室を実施(参加学習者10人) ・在住外国人からのアドバイス	菰田 さよ	-
9	令和2年11月8日(日) 10:00～12:00	2	可児市多文化共生センター フレビア	14	全体振り返り	・第8回、講座全体振り返り ・今渡にどんな日本語教室を作りたいか(グループワーク、発表)	菰田 さよ	-

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称： さまざまな手法や評価について学ぶ研修会】

取組の目標	さまざまな分野の視点から、評価の手法を知り、学習者にどんな効果が得られるのかを学び、日本語教室の運営プログラムの改善に役立て、日本語能力の向上へと導く。 ・研修で学んだ知識を活用し、当協会においては、ポートフォリオの取り組みを整備する。 ・受講者の現場で、日本語能力評価に取り組んでみる。
-------	--

内 容	〔1〕日本語能力評価とCEFRについて 〔2〕支援者との情報共有の会:ポートフォリオの取り組みについて　＝当協会運営の日本語教室支援者対象＝ 〔3〕評価を生かした自尊感情の育成　～脳科学を生かして～ 〔4〕大学生におけるポートフォリオの効果 〔5〕英語多読による効果について　～伸び悩む英語教育からの挑戦～ 〔6〕支援者との研修振り返り:研修を受けてどう感じたか、ポートフォリオの取り組みについて、どう見直すか ＝当協会運営の日本語教室支援者対象＝ 〔7〕学習者との情報共有の会:ポートフォリオの取り組みについて ＝当協会運営の日本語教室支援者及び日本語学習者対象＝									
実施期間	令和2年　9月　5日～令和　3年　2月　20日				授業時間・コマ数		1回　1時間　×　4回　＝　4時間 1回　1.5時間　×　1回　＝　1.5時間 1回　2時間　×　4回　＝　8時間 総時間　13.5時間			
対象者	日本語教育に関わっている方(日本語教師、日本語指導者、日本語ボランティア) 日本語教育に関心のある方				参加者		総数 40人 (受講者　36人、　指導者・支援者等　4人)			
カリキュラム案活用	『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について』									
使用した教材・リソース	―									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2		3						3	27
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名		補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年9月5日(土) 14:00～16:00	2	可児市広見 地区センター (Zoom)	10	手法や評価について学ぶ	日本語能力評価とCEFRについて		文化庁日本語教育専門職 松井孝浩氏		菰田さよ 近藤利恵
2	令和2年9月20日(日) 10:30～11:30	1	可児市多文化 共生センター フレビア	8	日本語支援者との 情報共有	当協会におけるポートフォリオの取り組みについて		土・日日本語教室 コーディネーター・指導者 菰田さよ		近藤利恵
3	令和2年10月11日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化 共生センター フレビア(Zoom)	14	手法や評価について学ぶ	評価を生かした自尊感情の育成 ～脳科学を生かして～		中津川市立加子母小学校 教頭 坂田俊広氏		菰田さよ 近藤利恵
4	令和2年11月15日(日) 13:00～15:00	2	可児市多文化 共生センター フレビア(Zoom)	13	手法や評価について学ぶ	外国語教育におけるポートフォリオ評価		朝日大学 准教授 松井かおり氏		近藤利恵 戸塚真希
5	令和2年11月22日(日) 13:00～15:00	2	可児市多文化 共生センター フレビア(Zoom)	11	手法や評価について学ぶ	英語多読による効果について ～伸び悩む英語教育からの挑戦～		NPO多言語多読 理事 西澤一氏		近藤利恵 菰田さよ
6	令和2年12月6日(日) 10:30～11:30	1	可児市多文化 共生センター フレビア	5	日本語支援者との 情報共有	評価研修会を振り返って、日本語教室で、 どのようにポートフォリオを運用していくか 考える		土・日日本語教室 コーディネーター・指導者 菰田さよ		近藤利恵
7	令和2年12月19日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化 共生センター フレビア	14	日本語支援者と 学習者との座談会	日本語教室でのポートフォリオの必要性、 取り組む意義を学習者から意見交換 及び情報収集する		土・日日本語教室 コーディネーター・指導者 菰田さよ		近藤利恵 戸塚真希 Yamaguti Mattos Geam hiro 日本語教室指導者 学習者
8	令和3年2月14日(日) 16:30～17:30	1	可児市多文化 共生センター フレビア	7	日本語支援者との 情報共有	〔日曜日クラス〕 ポートフォリオの内容について		土・日日本語教室 コーディネーター・指導者 菰田さよ		―
9	令和3年2月20日(土) 15:00～16:00	1	可児市総合 会館	5	日本語支援者との 情報共有	〔土曜日クラス〕 ポートフォリオの内容について		土・日日本語教室 コーディネーター・指導者 菰田さよ		―

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例① ●養成講座

①【第4回 令和2年9月13日】

テーマ:「フレビアの日本語教室について・在住外国人と交流
～地域に長く住んでいる外国人住民と意見交換をして、お互いのことを知ろう～」

第3回まで、フレビアにて実施していたが、第4回からは教室の新規開設を目指す今渡にある地区センター内で実施した。
前半は、当協会がフレビアで実施している日本語教室についての紹介と、教室支援者の教室への関わり方や、やりがい話を話していただいた。後半は日本に長く住んでいる在住外国人・日本語学習者を招き、日本での生活についてや、地域の問題、どんな日本語教室があったらいいかなどについて、受講者と意見交換・交流を行った。受講者からは、「在住外国人から具体的な意見が聞けて良かった」「支援者として何を求められているのかが、イメージできた」などという意見があった。
この講座を通し、地域の日本語教室を開設していくにあたり、在住外国人の意見を交えながら協働して日本語教室をつくっていくことを、少しでもイメージできたのではないかと感じた。



○取組事例② ●養成講座

①【第9回 令和2年11月8日】

テーマ:「全体振り返り」

最終回である第9回は、第8回に今渡地区センターで実施した日本語教室の振り返りと、講座全体を通してどんな学びがあったのかを振り返った。
実践を通して、学習者への話し方、教室内容の準備、日本語レベルなど、体験してみて感じ取った、楽しさや難しさを受講者同士が共有したあと、各グループで、新設する日本語教室の ①日本語教室の目標 ②開催する時間・曜日・場所 ③内容 ④教室として大切にしたいこと ⑤教室の名前を話し合い、発表した。
発表の様子から、この講座を通して受講者同士親密になれたこと、普段の支援者だけでは出ないようなアイデアや視点があり、今後の活動が楽しみになった。



(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例① ●評価研修

【第4回 令和2年11月15日】

ポートフォリオとして、作品そのものを綴じていく。地域の日本語教室では、自分の力で乗れた電車の切符、観に行った映画のチケット、テーマパークのパンフレット等もポートフォリオとしてなり得る。「パフォーマンスを捉えるための評価基準がある」ことを生かすためには、学習者が綴じていったパンフレットなどについて話題にする。それに対して、共感をする。それが、「指導者が学習者をよく見る。」ということにつながるのではないか。ということが分かった。



○取組事例② ●評価研修

【第7回 令和2年12月19日】

日本語教室の支援者と日本語学習者で座談会を行った。テーマは「日本語教室でのポートフォリオの必要性、取り組む意義」の意見交換及び、情報収集。学習者が順序立てて考えられるように、以下のように質問を進めた。

①〔来日時〕

- ・どこで日本に関する地域の情報を集めるか。 ・日本語が分からなくても生活できる、仕事できる→でも日本語学習は必要だと思うか。
- ・日本語が分からないと思う場面、勉強しなくてはいけないと思う場面は、何か。

②〔日本語教室に参加〕

- ・開催日時は、適当か。 ・どんな教室を求めるか→雰囲気、回数、テーマ、内容、レベル ・どうして、日本語教室に来ているか。
- ・どうやって、日本語の目標設定をしているか。

③〔ポートフォリオについて〕

- ・ポートフォリオは必要か。 ・どんなデザイン、コメント、管理方法がいいか。 ・何が勉強のモチベーションにつながるか。



(2) 目標の達成状況・成果

【養成講座】

講座を通して、地域の実情を知ることや、地域日本語教室の支援者として大切な視点を学ぶことができ、新設する市内集住地での教室開講に向けて受講者同士考え、体験し、学び合うことができた。
受講者は毎回熱心に取り組んで下さり、教室の必要性を、地域住民の一人として講座が始まる前から、感じてくださっていたようにも思った。

第9回(最終回)のアンケートは以下の通り。

- ・今渡に在住している者として、毎日近所での外国人と接する機会は多く、彼らが日本の生活に困らないために、共生できるように、日本語教室の開設は必要だと思う。
- ・各務原で日本語の講師をやっているのですが、今回の講座を受けて生活者としてのサポーターとの視点が新鮮であり、面白かった。
- ・「日本語教室≠日本語を教える場所」という言葉は一番印象に残りました。

講座の中で在住外国人と交流し、地域に対して思っていることや、生活での困りごと、どんな教室があつたらいいかについて話し、お互いの意見を交流することで、相互理解につながった。

第8回の実践の学習者からのアンケートには、「会話する教室が欲しい、友達になりたい」「自然の話し方を教えてほしい」という意見、第4回に参加してくれた在住外国人からは、「学習者の様子を見ながら、話し方を工夫したほうがいい」というアドバイスをもらい、参加する学習者の意見はもちろん、教室を一緒につくっていく在住外国人も巻き込んでいきたいと思った。
講座の中で実施してきたように、日本人・外国人住民を巻き込みながら、少しずつ相互理解できる場として、そして、地域ならではの内容も盛り込んだ教室を目指し、次年度は開講・定着を目指していきたい。

また、既に市外に活動している教室がある受講者のアンケートでは、講座終了後教室支援者としてはつながらなかったものの、元々の教室に戻り、この講座での学びや視点を教室に活かしたい、地域を越えた支援者同士の交流があるという意見をいただき、協会の土曜日本語教室の課題につながることから、そのような機会を作っていきたいと思っている。

【評価研修】

さまざまな分野の視点から「評価」の手法を知り、日本語教育に置き換えて考えることができた。受講者アンケート結果は、以下のとおり。

【講座①】

- ・CEFRが設立された時代背景を学んだことで、多言語・多文化を学ぶことの重要性がよく分かった。
- ・フランスの例で、外国人にフランス語を学んでもらうことがまわりまわって、在外フランス人の安全保障につながっているというエピソードを私たち日本人ももっと真剣にとらえるべきだと思った。

【講座②】

- ・子どもの「ほめる効果」がどんなことに良いのか、知ることができて良かった。ドーパミンの効果が知れて良かった。子どもたちに、どんなふうに、ほめたらいいのか、お話が聞けて良かった。

【講座③】

- ・「大学教育におけるポートフォリオ導入事例」が興味深かった。理解力のある学生は問題ないが、水面下の学生を引き上げる工夫と努力を感じ取った。社内教育も同じです。分からない、理解できない人にどう実感してもらうかを改めて考える機会となった。

【講座④】

- ・言語学習向上の可能性として多読で読むことが本当の意味で、その言語で読むことにつながるということが分かった。自分の母語以外の言語向上や維持に役立てられる。視覚で見た絵など読むことにつなげることは大事だと思った。

当協会の目的としては、当協会が運営する日本語教室の指導者・支援者が本研修に参加し、現在取り組んでいるポートフォリオについて、今一度見直すことだった。今後、どのように継続していくのか否か、また、取り組んだ場合、どんな効果が生まれるのかを学習者も交えて、考えることができた。従来、指導者や支援者のために必要な研修を受講するよう促しても、なかなか関心を示さない方々が多かったが、今回、実際にポートフォリオを運用するのは、指導者・支援者であり、活用するのは、学習者であるため、本研修受講を必須にした。さらには、講座と講座の合間に、当協会の指導者・支援者限定の研修会を設定した。じっくり話し合うことで、指導者・支援者がポートフォリオについて、真剣に向き合い、より効果的な方法を模索する姿が見られ、いい研修の流れとなった。

(3) 今後の改善点について

【養成講座】

講座終了後、感染拡大もあり教室の新設に向けて、受講者とはメールのやりとりだけで、再度集まる機会を設けることができなかった。
また、フレビアで実施している日本語教室への参加も、声をかけたが繋がらなかった。考えられる理由としては、
①“新規”の教室に関わりたかった ②教室見学時に既存の教室の雰囲気を受講者にあっていなかった
③初心者の方が支援者として活動する一步の支えが不足していたということが考えられる。
研修終了後のフォローと、活動の場を検討しておき、関係を切らさない工夫を心がけていきたい。

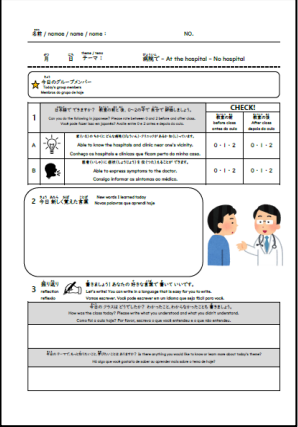
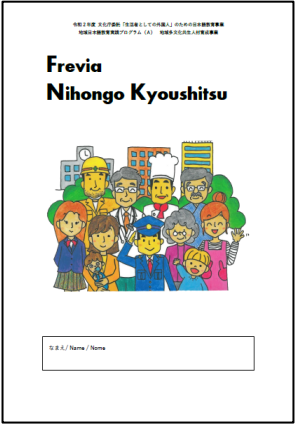
それから、今年度の講座の準備から実施にあたり強く感じたことは、その地域の事情をよく知っている日本人または外国人の存在が必須であることだ。

現在フレビアで実施している日本語教室は、集住地ではないが市外から通う学習者や様々な背景を持った学習者を受け入れることができているが、コロナ禍以前から学習者数が増えているわけではなかった。次年度は今度の教室の実施にあたり、集住地内に教室があれば通いやすく、日本語学習のきっかけとなるのか、集住地の中での教室の在り方についても検証していきたいと考えている。

【評価研修】

人は、評価されると学習にどう影響が及ぶのか。評価が良ければ、学習意欲向上につながるし、悪ければ、改善しようと意識が働く。いずれにしても、継続的に学習できるように、評価について考えてほしいと本研修を企画したが、受講者自身が置かれている立場によっては、学習者の継続的学習、自律的な学習につなげることは、関係なく、ただ、目の前にいる学習者に日本語を教えるだけで終わるケースが散見されるため、日本語教室に関わっている方には、学習者の継続的、自律的な学習に関心を持っていただけるように、本研修を幅広く呼びかけた。しかし、個人個人に、直接、本研修実施の主旨説明をしても関心の低さが伺え、受講にはつながらず、非常に残念だった。
いきなり、研修を目の前にして、受講を勧めるより、常日頃から、指導者・支援者と日本語教室について話し合い、目的意識をもって、関わってもらえるような教室運営を心がける必要がある。

日本語教育のための学習教材の作成 【 教材の名称 ： Frevia Nihongo Kyoushitsu 】			
取組の目標	ポートフォリオを実施するための評価シート作成		
内 容	2019年度ポートフォリオ内で使用していたCanDoリスト(毎回の授業で使用)を教材としてまとめた。 ポートフォリオの活性化のために、取り組み方を一旦見直した。学習者には、自身の日本語学習についてと、ポートフォリオの取組についてどう考えているかのヒアリング調査を土曜日の日本語教室内で行った。取組2の研修での学びと、学習者の声をもとに、支援者同士で話し合い、教材に反映し、作成した。		
実施期間	令和 2年 5月 17日～令和 3年 3月 19日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 33回 = 66時間
対象者	日本語学習者	教材の頁数	40 ページ
カリキュラム案活用	「生活上の行為の事例」と「日本語能力評価」ポートフォリオ内の評価シートの参考にした。		
事業終了後の教材活用	日本語教室で実践		
成果物のリンク先	https://drive.google.com/file/d/1RB0229Y_zWNvzNITaTWn2zW8GPzOiCHy/view?usp=sharing		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

在住外国人が地域社会の一員として、安心安全な生活ができるような支援を構築する。
そのために、一人でも多くの地域住民が日本語教室に関われるように日本語支援者養成講座を実施し、従来の日本語教室の支援者を増やし、今渡・土田地区の新設に向けた準備も整備する。従来から取り組んでいるポートフォリオを活性化するために、活動分野ごとに評価方法を知り、その評価によりどんな効果が得られるのかを考え、見直しや改善につなげる。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

コロナ禍でも日本語教室を実施できるように考え、日本語を学べる場を持ち続け、学習者に寄り添うことができた。
教室に来る学習者の中には、仕事を失った人や、長期間休みになる学習者もあり、教室の合間に生活に関する相談や、仕事の相談も聞くことができた。
大変な状況の中でも、日本語教室に参加する学習者の様子を見て、今後どんな状況になっても、目的・目標を常に心がけて活動していきたいと感じた。
養成講座には、可児市内だけではなく、近隣の地域からの参加者もあり、集住地区の今渡にある地区センターや、その地域に住む外国人と交流することで、受講者は教室が少しずつイメージできたようだった。次年度は教室を開講し、今回の受講者とともに、定着させていきながら、関わる人や地域を広げていきたい。
そして、評価研修や教材作成の取組から、従来の日本語教室やポートフォリオについて、日本語教室の関係者全員で考え、振り返ることができたことにより、支援者同士で話す機会が増え、話し合う内容も変わってきた。教室運営に関わるのはコーディネーターだけではなく、支援者とも想いを共有し、教室の方向性や取組内容について、常日頃から話し合い、共通意識を持つことが必要であると、改めて分かった。
そうすることで、地域の日本語教室の中で出会う一人の日本人、日本語学習支援者として、教室に来る学習者に寄り添うことができるのではないかと感じた。既に教室運営に関っている指導者はもちろん、理解者を地域の中で少しずつ増やしていけるよう、今後も取り組み続けていきたい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

教室のテーマを決める際「生活上の行為の事例」を参考にした。日本語教室に参加している学習者の日本語レベルは、基礎の学習者が多かったため、学習者に合わせて内容的に取り扱いやすいもの、より生活の中で使用頻度が高そうなものから順に選定した。日本語教室には様々な地域からの参加者がいるため、地域によって特徴が違う、ごみの分別や、専門的な用語が必要とされる郵便局・市役所・銀行など、日本人支援者でも知識が必要とされる内容に関しては、支援者も知識を得ることと、専門の方にお問い合わせが必要があると感じた。
また、能力記述の部分を参考に評価シートのCandoを作成した。可児市地域バージョンのCandoリストを作成するために、翻訳されている「生活上の行為事例」を学習者・支援者にアンケートをとり、その乖離の検証と、学習者の日本語レベルに合わせたCandoを分けて作成していきたいと考えている。
日本語能力評価(オレンジ本)については、能力評価についての理解と、ポートフォリオの作成にあたり、参考にした。
そして養成講座・研修では「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改定版 平成31年3月4日」における、日本学習支援者研修における教育内容と、日本語学習支援者に望まれる資質・能力を参考に、プログラムを組んだ。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

地域との交流として、防災では「多文化演劇ユニットMICH」や「清流の国ぎふ女性防災士会」の方に、ごみの分別について「市役所環境課」に講座を依頼することができた。数年、土曜日の夜の教室では、地域の人や、外部の団体と交流した教室内容の実施ができていなかったため、実施することで、教室内で座って学ぶ教室スタイルではなく、体験・活動型の教室展開を指導者に理解してもらうことができた。
また、最寄りの地区センター(下恵土地区センター)の講座との交流や、その地区センターと関わりのある地域団体と、日本語教室と関わりを持った講座について話すことができた。残念ながら、市内感染状況等のこともあり、今年度の実施には至らなかったが、次年度以降活動できるよう、つながりをつくることができた。
今後、集住地である今渡地区で日本語教室を実施していくため、その地域に住んでいる人の協力・理解も得たいと思い、自治連合会や民生委員会に参加させていただき、講座についてと、今後の今渡地区で開設を予定していることを伝えた。集住地でなくても、近年、市内にはどの地域にも外国人が増えてきていることから、今後の今渡の活動や情報が、市内のどの地域にも伝わることを期待している。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

学習者に対しては、当協会が毎月発行している多言語情報誌(UNIDOS・MAGKAISA)、広報の多言語版、日本語教室のFacebookグループ内で発信した。可児市役所や在住外国人の友達から教室のことを紹介してもらったという人も多かった。日本語教室のFacebookグループを活用し、日本語教室の様子だけではなく、感染予防対策をして実施している様子を写真で投稿したり、状況に応じた教室の実施方法についてのアンケートを取ったりして、学習者がいつでも戻って来られるように、参加しやすいような発信を心がけた。グループの投稿を見て連絡してくださったり、問い合わせたりする学習者も多かった。
日本語支援者養成講座・研修は、月2回配信の当協会メルマガ、当協会Facebook、チラシ、ポスター、地区センターに掲示、集住地約500軒にチラシ配布、その他関係各所にチラシ設置及び配布し、出席喚起の依頼をして、幅広く周知させた。

(6) 改善点、今後の課題について

今年度も日本語教室を実施してきたが、コロナ禍で先が見えない状況となり、人と人とのつながりや気持ちを大切に日本語教室を運営してきて、対面だからこそ身近に感じられた部分が、ソーシャルディスタンスやマスクなどで妨げられ、難しく、悩む場面も多々あった。
教室で学習を続ける人がいる一方で、この地域では日本語ができなくても、様々なものが翻訳されており、また、派遣会社には通訳もいて、日本語が分からなくても仕事・生活できることから、日本語習得の必要性を感じていない在住外国人も多い。教室に参加している学習者は、意欲のある人が多いが、在住外国人自身が日本で安心安全に暮らしていくために、日本語習得の必要性や地域と繋がりを持てて楽しいと前向きになれる、その「最初の一步」がどこにあるのかを、探っていかなければならないと思う。
また、意欲の問題だけではなく、コロナ禍等、何らかの理由により教室に来ることが難しくなってしまった学習者たちにも、対面以外でどうアプローチし、つながり続けるかの方法も探っていく。
養成講座では、日本語教室は多文化共生のまちづくりのためのひとつであり、教室の支援者や関わる人を少しずつ増やしていくことで、誰もが安心安全に暮らせるまちを作っていきたいと強く感じた。
そのためには、まず、フレビアが存在や取組、日本語教室を周知させることが必要である。フレビアで実施している教室は、集住地から離れているが、今渡に教室を新設し、実施していくことで、地域の人たちへに周知することができるのか、そして、在住外国人にとっても家の近くに日本語教室があれば、学習意欲につながるのか。地域の中に教室ができたとき、どんな効果があるのかについても検証していきたい。
教材作成については、次年度が3年目となる。今年度、ポートフォリオの取組について見直したことで、ポートフォリオは支援者と学習者で作り上げていくものとして、教室で教材として活用することに決めた。引き続き、教室支援者や学習者と検討しながら、さらなる活用に向けて完成させる。
本年度3つの取組を実施してきたが、「在住外国人が日本語を習得する＝安心安全の生活ができる」とは限らないので、フレビアや日本語教室の活動だけではなく、地域や住民ひとりひとりが連携しながら、多文化共生のまちづくりができるよう、今後も働きかけていきたい。

(7) その他参考資料

- ・取組2: 地域日本語支援者養成講座 チラシ
- ・取組2: さまざまな手法や評価について学ぶ研修会 チラシ
- ・日本語教室サポーター募集チラシ